

# 総務産業常任委員会 行政視察研修報告書

## 【視察先】

鹿児島県南さつま市（令和7年5月20日）

熊本県あさぎり町（令和7年5月21日）

## 【報告者】

委員長	多田	利浩	P 1 ~ 4
副委員長	工藤	健次	P 5 ~ 6
委員	熊谷	健作	P 7 ~ 10
委員	上野	満	P 11 ~ 12
委員	衛藤	清隆	P 13
委員	河野	美華	P 14

## 行政視察研修報告書

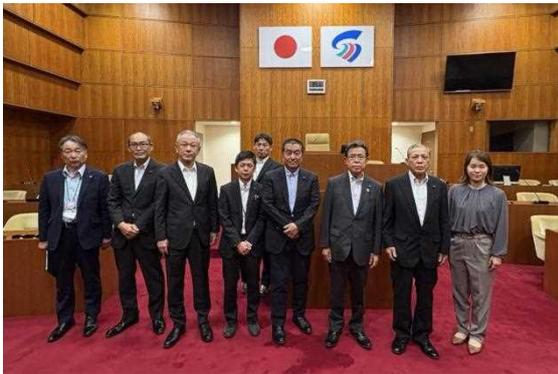
作成者氏名	多田 利浩
視察先・視察日	①鹿児島県南さつま市 令和7年5月20日(火) ②熊本県あさぎり町 令和7年5月21日(水)
視察目的	①地域公共交通について(鹿児島県南さつま市) ②まちづくり運動支援助成事業について 地域公共交通について(熊本県球磨郡あさぎり町)
所 感	
<p>①鹿児島県南さつま市</p> <p>・鹿児島県南さつま市は人口30,788人(2025年5月末現在)、面積は283km<sup>2</sup>、これは日出町の約3.8倍です。一般会計予算は304億円。アクセスは、鹿児島市中心部から車で60分、鹿児島中央駅からバスで85分、鹿児島空港から空港バスで70分。</p> <p>鹿児島市内から市の北西部には日本3大砂丘の1つに数えられる、吹上浜があります。また、南西部にはリアス海岸が広がっています。坊津(ぼうのつ)の双剣石(そうけんせき)は国の名勝に指定されています。吹上浜には太平洋戦争末期に万世(ばんせい)飛行場があり最後の特攻出撃地として知られています。訪問した際には吹上浜の砂を使ってのサンドアート「吹上浜砂の祭典」が市役所前で開催されていました。</p> <p>地域公共交通に積極的に取り組んでいます。しかし全国平均が29%の高齢化率が40%を超えていることで、施設入所などの理由で年々利用率が低下しているそうです。バス事業者は1社、タクシー事業者は4社。路線バスは6路線あります。地元バス会社の鹿児島交通が運行しています。現状は、コロナ禍による利用客の大幅な減少が原因で赤字になり、ほとんどの路線で廃止代替化が進んでいます。「つわちゃんバス」という名のコミュニティバスを地元バス業者の鹿児島交通に委託して運行しています。しかし、短距離の便は利用客が少ないそうです。令和6年に3路線を廃止しています。バスの減便廃止で代替化を要望してきましたが、バスの代替えになりうるタクシーも運転手が不足していて難しい状況でした。そこで「つわちゃんタクシー」という名の予約型乗り合いタクシーに移行。運行は市外のタクシー事業者にも一部を委託しています。自宅前まで来てくれるタクシーとして運航しています。65歳以上には2万円分のチケットを配布しています。「つわちゃん」は市の花「つわぶき」(キク科)から引用した愛称だそうです。</p> <p>昨年、既存の移動手段に頼らない方法を模索するために自動運転EVバス(2022年に行政視察研修で訪れた茨城県境町のフランス製バスと同型)の2週間の実証実験を行っています。市民には好評だったそうで、本年度も実証実験を計画しています。現在の自動運転は「レベル2」です。アクセルとブレーキ操作による加速や減速の制御やハンドル操作による左右の制御をシステムが担っていますが、安全のために乗務員が1名乗車しています。これを「レベル4」の完全自動化まで進化させるにはEVバス車両と信号機との連動などが必要で、数千万円の費用がかかるとのことでした。</p> <p>また、市の南部の防津(ぼうのつ)地区は枕崎市が生活圏ということで、枕崎市と協議して相互乗り入れを実施しています。</p>	



実証実験の自動運転 EV バス



南さつま市職員の皆さまと意見交換



南さつま市議場で記念撮影



市庁舎前で開催されていた「吹上浜砂の祭典」

## ②熊本県球磨郡あさぎり町(あさぎりちょう)

熊本県球磨郡あさぎり町(ちょう)は人口13,880人(2025年5月末現在)、面積は159km<sup>2</sup>、これは日出町の2.1倍です。一般会計予算は133億円。アクセスは熊本市中心部から車で100分。町内を運行していたJR九州の湯前線は、平成元(1989)年に第三セクター鉄道化され「くま川鉄道」として運営されています。熊本県南部に位置しています。熊本県内では山都町(やまとちょう)、氷川町(ひかわちょう)とともに「まち」でなく「ちょう」と読む数少ない町で、また県内市町村名で唯一のひらがな表記をする自治体です。令和2年の記録的な豪雨で球磨川が氾濫し、この県南地区は1200億円を超える被害が出たことは記憶に新しいです。

### 1、まちづくり運動支援助成事業

行政区で実施しているところが多いそうです。地域の環境美化活動や老人会と子どものランドゴルフなどの内容が多いです。助成金交付は2年度までということでした。

## 2, 地域公共交通について

令和元年に高齢者・身体障がい者やその他交通弱者の交通手段確保のために、定時12路線による乗り合いタクシーを実施しました。年々、利用率が低下して、利用者が不在でも車両を稼働するために、非効率化が指摘されてきました。人口減少や定路線から離れて暮らす住民にとっては利用しづらい面もあり、利便性が問われていました。

そこで、現在のデマンド交通「ほのぼの号」へ移行しました。原則3台で運航、予約が多い場合は1台増便して運航しています。複数の方との乗り合いです。また、「コンビニクル」というAIデマンド交通システムを利用して運行経路の最適化を図っています。

予約は3日前から乗車の1時間前まで可能です。自宅付近の道路から乗車ができます。

公共機関・金融機関・医療機関・食料生活用品店などの指定乗降場所があります。協力事業所によっては、社会福祉協議会の有償ボランティア(かちゃあボランティア)に登録してもらい、職員による、乗降支援をお願いしています。かちゃあボランティアには現在137名の利用登録があり、99名のボランティアが活動しています。

デマンド交通「ほのぼの号」に移行して、道路付近の停留所から、自宅付近の道路が乗降場所になった。指定乗降場所が増えた、また定時制から予約制になり利用時間に余裕ができて便利になったなどの声が聞かれるそうです。



デマンド交通「ほのぼの号」



あさぎり町の議場を見学

正面が議長席、右側が議員、左側が執行部



議長より歓迎のごあいさつ



あさぎり町議の皆さんと議場で記念撮影

## 調査研究・政策提案事項

鹿児島県南さつま市と熊本県球磨郡あさぎり町の行政視察研修を通して、これからの改善の提案事項は以下の通りです。

①あさぎり町のまちづくり運動支援助成事業。2020年のあさぎり町の総人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は38.4%で、これは全国平均平均の28.7%よりも9.8ポイント高くなっている。同年の日出町の高齢化率は30.8%です。このまちづくり運動助成支援事業の実施要綱では「まちづくり運動の推進の調査・研究」「公共施設の環境美化運動(ゴミ収集や除草)」が事業として掲げられている。この事業の申請団体や事業内容から伺えるのは老人会や老人クラブが関係していることが多いことです。高齢化での高齢者の今後のあり方を模索していることが推察されます。日出町でもこのような事業を通して、高齢者が関わる事業を積極的に支援していくことが望まれます。あさぎり町では「木工教室」「地区夏祭り」「老人会と子どものグランドゴルフ交流会」などが行われています。日出町では老人クラブの減少とともに、子ども会も減少しています。このような事業で「高齢者と子どもとのふれあい」が交流の機会を増やすことが望まれます。

②南さつま市とあさぎり町の地域公共交通。地域公共交通は、自治体の面積・形状や人口によって工夫が求められるため、先進地と同様にはいかないように感じます。①と同様に高齢化率の高くなるにつれての変化もあります。視察した2つの自治体も同様で、高齢化で施設への入所が増えて、地域公共交通の利用者が減少していたのが現状です。日出町では定時運行のコミュニティバスよりも、利用を予約できるデマンド型の方が適しているように思えます。デマンド型では全国的に問題になっている、タクシー運転手の不足をどうやって解決するかが課題です。定時運行のコミュニティバスでは隣接の別府市との協議を早急に進めて、別府医療センターへの乗り入れの実現を望みます。地域公共交通の乗車に関しては、65歳以上の高齢者には一定額のチケット配布を、また障がい者などの交通弱者へも同様の支援を望みます。乗降に際しての支援、今回の視察ではあさぎり町のかちやあボランティアがそうですが、社会福祉協議会の有償ボランティアに登録してもらい、乗降支援も大切だと感じました。

日出町では社会福祉協議会が高齢者が生活の中で困っているゴミ出しや買い物支援を行う「エプロン隊」があります。デマンド交通などの乗降に際しての支援も検討をお願いしたいです。

以上

## 行政視察研修報告書

作成者氏名	工藤 健次		
視察先・視察日	鹿児島県南さつま市	令和7年5月20日（火）	
	熊本県あさぎり町	令和7年5月21日（水）	
視察目的	地域公共交通について まちづくり運動支援助成事業について		
研 修 内 容			
<p>《南さつま市》</p> <p>1. 研修事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 路線バス</li> <li>② コミュニティバス（つわちゃんバス）</li> <li>③ デマンドタクシー（つわちゃんタクシー）</li> </ul> </li> </ul> <p>人口 39,600 人、総面積 283 km<sup>2</sup>、薩摩半島の西岸に位置した市で、公共交通を担うバス事業は 1 社、タクシー事業者 4 社でコロナ禍の赤字によりバスの減便・廃止代替化を令和 4 年要望、バスの代替手段になりうるタクシーも運転手不足が顕著であるとのこと。</p> <p>南さつま市の公共交通は厳しい局面が続いており、今後は様々な施策を組み合わせ検討をしていく必要があり、予約型タクシーへ移行、自動運転の実証、自治体ライドシェアを進めていくとのこと。</p> <p>市内には、高速道路や鉄道がなく「路線バス 6 路線・つわちゃんバス 4 路線・つわちゃんタクシー 9 地区」を運行していた。</p> <p>事前の質問事項については、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つわちゃんバス、タクシーの運行委託事業 54,116 千円</li> <li>・65 歳以上にタクシーチケット配布 一人 20,000 円</li> <li>・路線等の見直しは、半年に 1 回のペース</li> <li>・住民への周知は、市報・お知らせ版で申請書を全戸配布、必要に応じて地区館で説明会</li> <li>・業者からの意見は、運転手不足等の回答を頂き、取り組みを確認することができました。</li> </ul> <p>《あさぎり町》</p> <p>1. 研修事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり運動支援助成事業</li> <li>・地域公共交通             <ul style="list-style-type: none"> <li>デマンド交通 「ほのぼの号」（予約乗合タクシー）</li> </ul> </li> </ul> <p>熊本県の南部、球磨盆地の中央に位置し、人口 13,800 人、面積は 159 km<sup>2</sup>、平成 14 年に 5 ヶ町村が合併をして「あさぎり町」となった。</p> <p>町づくり事業については、あさぎり町まちづくり運動支援助成金事業実施要項によって、町づくり団体からの申請、受理（申請書の審査）、決定（交付決定通知）事業実施、交付請求・実績報告、受理（審査）、交付（助成金）の流れで行っているとのこと。</p>			

公共交通については、あさぎり町デマンド交通「ほのぼの号」を運行しており、電話予約、自宅登録場所と指定乗降場所を移動できる乗合サービス、町内在住者、一人一乗車300円、9時～17時などでした。

事前の質問事項については、

○まちづくり関係

- ・助成金は、町単費。合併特例債の活用で「町づくり基金」から6年度は、200千円充当
- ・申請の状況は、4年度1件、5年度2件、6年度3件

○公共交通関係

- ・公共交通の総事業費は、7年度84,034千円
- ・住民への周知は、広報誌、地域サロン
- ・医療機関等の連携は、指定乗降場所として協力を戴いている  
社会福祉協議会の有償ボランティア（かちゃあボランティア）に登録してもらい、職員による乗降支援に協力してもらっている
- ・運行主体は、町内のタクシー会社（町内に1社のみ）
- ・交通事業者との連携は、タクシー会社がデマンドの運行事業者で予約受付から運行までを担っている。

導入後の変化は、道路脇の停留所から自宅付近の乗降場所になった。

予約システムは、東京の㈱「コンビニクル」というAIオンデマンド交通システムを使用等の回答を頂き、取り組みを確認することができました。

研修結果・政策提案事項等

公共交通については、各自治体も運転手の不足など同じ課題を抱える中、南さつま市は先覚的な自動運転の実証試験の取り組みが印象に残りました。

両市町ともコミュニティバス、デマンドタクシーに愛称をつけて親しみやすくしており、あさぎり町は、デマンド交通（予約制乗合タクシー）をドアツードアで運行し、お出かけパック「デマンド交通+かちゃあボランティア」など工夫した取組をしていました。

日出町もデマンド交通については、利用者の利便性を図るためタクシーチケットやドアツードアの運行も参考に、ライドシェア・実証試験等を積極的に、また工夫（愛称・お出かけパックなど）した取り組みも必要であると強く感じました。

## 行政視察研修報告書

作成者氏名	熊谷 健作
視察先・視察日	鹿児島県南さつま市 熊本県あさぎり町 熊本県阿蘇地震ミュージアム 令和7年5月20日～22日
視 察 目 的	地域公共交通、まちづくり運動、災害対策のそれぞれの課題について学びその成果を日出町の施策として活かすため。
研 修 内 容	
<p>●鹿児島県南さつま市</p> <p>当市は平成17年に5つの市町が合併して誕生した人口30,652人（7年3月現在）の薩摩半島の南西部に位置した面積283km<sup>2</sup>の広大な自治体である。周辺部は過疎化し中心地に人口が集中している。</p> <p>公共交通の現状は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、バス事業者は1社、タクシー事業者は4社である。</li> <li>2、コロナ禍の赤字によりバスの減便、廃止代替化を令和4年から要望されている。</li> <li>3、バスの代替手段になるタクシーも運転手不足が顕著になってきている。</li> </ol> <p>となっている。</p> <p>路線バス（鹿児島交通）、コミュニティーバス、デマンドタクシーを複合して展開してきたが、それぞれ路線の廃止や事業者の廃業が進んでいる。</p> <p>今後はコミュニティーバス（つわちゃんバス）の効果的な路線の見直しや予約型乗り合いタクシーへの移行を実施している。</p> <p>また、国の全額補助事業のバスの自動運転の実証実験を3年計画で実施している。県内初でNTT西日本の協力で年間約6,000万円の事業費である。同時に自動運転技術を提供する業者を併せた3者で地域活性化に関する包括連携協定を結んでいる。ちなみに自動バスの車体価格を質問したところ約1億円だった。</p> <p>今後の検討課題として自治体ライドシェアを事業者と協議して進めていくことを考慮している。</p> <p>交通政策についての利用者の満足度調査を定期的に行っており、概ね理解を頂いているそうである。</p> <p>つわちゃんバスの運行は鹿児島交通に委託していて、協力的である。</p> <p>利用者側も人口減や中心部への人口移動等で利用が減ってきている。</p> <p>●熊本県あさぎり町</p> <p>当町は平成15年に5町村が合併して誕生した人口13,887人（7年3月現在）の球磨盆地の中央に位置し、面積159km<sup>2</sup>の年間を通じて霧の発生が多い地域である。</p> <p>地域交通の主力はデマンドタクシーの「ほのぼの号」である。以前は乗り合いタクシー事業を実施していたが、定時運行であったため利用者が減少し、利用者がいなくても車両が稼働し非効率であった。そのため予約型のデマンドタクシーに切り替えた。</p>	

この町の事業で出色なのは、自宅付近の道路まで迎えに来てくれることと、乗降場所で手助けしてくれる有償ボランティアの活用である。前者については主な関係機関であるバス会社と協議を重ね、九州運輸局にも相談して実行できたということだった。後者は社会福祉協議会に登録している有償ボランティア団体「かちゃあボランティア」に委託していて、利用者は「おでかけパック」1回100円で乗降時の介助や荷物の積み下ろしを手伝ってもらえる。またこの「かちゃあボランティア」は日常の困りごとにも1回200円で利用できる。

ほのぼの号の運行主体はタクシー会社で協力的であり、予約受付から運行まで担っている。また乗降場所を路線バスの停留所と重ねているので利用者の利便性を高めている。

まちづくり運動支援補助事業は町内の自治区や団体で、地域の活性化につながる様々な活動に助成金を支給するものである。1件10万円を限度とし最大5年間延長できるが、その総額は20万円を限度としている。

開始以来、徐々に申請が増えている。財源は町の単費である。

#### ●阿蘇地震ミュージアム

熊本地震の際に東海大学熊本校があった場所に地震の様子や被害の状況、救助、復興までの道のりを提示する

また貴重なお話を聞くことのできる施設である。

ボランティアの方によって発災時の状況、何度も余震が続き1回目より2回目の方が揺れが大きく、後にそれが本震出会ったこと等をお聞きした。これまでの地震と違って、段層の歪みが継続して続き、被害が甚大になったこと、直下型で木造家屋が破損していったことなどを思い出された。大学の校舎が耐震工事をしている所としてない箇所では被害の状況が全く違う様子を見ることができた。

#### 研修結果・政策提案事項等

地域公共交通の課題はこれまでに学んだ自治体と同じように2市町とも試行錯誤しながら、利用者に最適な正解を模索している。また普遍的な課題ではあるが、自治体ごとに違う諸条件を考慮して独自色を出そうともしている。そんな中今回訪問した2市町は日出町と同じようにコミュニティーバスとデマンドタクシーを組み合わせで回している。タクシー券も過去に検討や実施をしていたらしいが、なかなか住民の満足を得ることができなかった。日出町も今年度企画したが、委員会で反対した結果実施に至っていない。今後も難しいと思われる。

南さつま市は広大な面積の中に高速道路も鉄道も通っていない。市はバス事業者、タクシー会社と協力しながら利便性に努めているが、周辺部への減便や廃止は増えているようである。それでも住民からの強い要望が少ないようであるのは、合併して20年経過してあきらめのようなものがあるのか、あるいは自家用車での助けあいがあるのかと想像される。そうした状況でライドシェアに移行しようとする姿勢は十分理解できる。

日出町も別府市での実証を参考にして近い将来での採用を考えるべきである。

先進的な取り組みの自動運転は国費で全て賄える画期的なもので、こうした補助事業への積極的な参加は日出町でも参考にしてほしい。そのためには常にアンテナを張って国の動向に注視していかなければならない。

あさぎり町で参考にしたいのは、なんと言ってもボランティアの交通施策への活用である。もともとが福祉タクシーから出発しているからかと思われる。福祉協議会で展開している事業だが、町民が積極的に参加、活動していることが素晴らしく思える。人口の多寡に関わらず日出町でも実行すべきと考える。

またデマンドタクシーの予約にはAIによるシステムを採用している。これからは予約作業を町かタクシー会社かのいずれがするにしても必須なアイテムである。是非採用してほしい。

まちづくり運動は日出町でも同じような事業を行っているが、今一つ低調なようである。あさぎり町では清掃作業にまでも申請を認めているので、もう少し間口を広げて対応して欲しい。自治区への住民の加入促進にはこうした活動も必要であると思われる。

災害の備えとしては簡易トイレの常備が忘れがちで、しかし絶対に必要なものであるという話に共感した。

耐震工事の効果にはその状況を目の当たりにしてしっかりと納得できた。必要と思われる建物への耐震診断と合わせた啓発を行っていただきたい。この施設は地震発災時から時系列に沿って説明、展示があり、そのメカニズムも解説してくれている。日出町の子どもたちや大人にも是非訪れていただきたい施設である。

今回の研修では日出町において喫緊の課題である地域交通を中心に学んだ。どちらも担当職員が研究や研鑽を重ねて真摯に取り組んでいた。特に隣の自治体への乗り入れは早くから実現している。そのためには直接役所や交通会議に乗り込んで強く要望しているからで、日出町でも永年の町民の要望である別府市の病院への乗り入れを熱意を持って実現していただきたい。

最後に我々の研修を快く受け入れていただいた両市町の関係者の皆様に御礼申し上げます。



南さつま市 「つわちゃんバス」

# あさぎり町デマンド交通 「ほのぼの号」

電話予約により、自宅登録場所と指定乗降場所の間を移動できる乗合サービスです。(巡回バスではありません。ご希望の時間・乗降場所をご予約いただくと、他の利用者の予約状況とあわせて複数の方との乗合目的地まで運行します。)

## 自宅登録場所



## 指定乗降場所



## 指定乗降場所

- ・あさぎり駅
- ・あさぎり中学校

- ・あさぎり町役場
- ・おかどめ幸福駅

### 医療

- ・秋山歯科クリニック
- ・犬童内科胃腸科医院
- ・なかくま歯科医院

- ・東病院
- ・岩井クリニック
- ・たかの眼科

あさぎり町 デマンド交通「ほのぼの号」

## 行政視察研修報告書

作成者氏名	上野 満
視察先・視察日	鹿児島県南さつま市・令和7年5月20日（火） 熊本県あさぎり町・令和7年5月21日（水）
視 察 目 的	地域公共交通について（南さつま市） 地域公共交通について（あさぎり町） まちづくり運動支援助成事業（あさぎり町）
研 修 内 容	
<p>◎鹿児島県南さつま市 人口：30652人 面積：283km<sup>2</sup></p> <p>公共交通を担うバス事業者は1社、タクシー事業者は4社であり、路線バスは6路線、つわちゃんバス（コミュニティバス）は4路線、つわちゃんタクシー（デマンドタクシー）は9地区で運行されている。利用料金は1回200円で小学生以下、身体障がい者、65歳以上の免許証返納者は無料である。</p> <p>また、国の補助金制度を利用して自動運転の実証実験も実施している。</p> <p>自治体ライドシェアの導入も検討しており、事業者との協議を進めていくとのことであった。</p> <p>◎熊本県あさぎり町 人口：14034人 面積：160km<sup>2</sup></p> <p>①地域公共交通</p> <p>乗合タクシー（デマンド交通）を5地区で実施している。タクシー会社は1社のみで、常時3台、臨時1台で運行している。利用料金は1回300円で小学生、身体障がい者は半額、未就学児は無料である。乗降場所は公共機関、医療機関、金融機関、食料品店の37か所である。</p> <p>②まちづくり運動支援助成事業</p> <p>行政区や団体が行う地域づくりに対する支援の一環として、申請内容により上限10万円の助成金を交付している。活動内容は公共施設の清掃活動、子ども木工教室。老人会等のグラウンドゴルフ大会の開催等である。</p>	
研修結果・政策提案事項等	
<p>① 南さつま市</p> <p>自動運転については、信号機と車体との交信ができていないなど、課題も多く、導入にはかなり時間がかかりそうである。</p> <p>② あさぎり町</p> <p>支援が必要な高齢者や障がい者を支援する地域の支えあい活動をはじめている。地域住民がボランティアとして登録し、買い物代行、ゴミ出し、役所への書類提出、デマンド交通利用時の荷物の乗せ降ろし等の「ちょっとした困りごと」の手伝いを行っている。ボランティア登録者は190名。</p>	

地域公共交通については、どこも同じような課題をかかえている。地域の環境や交通事情をふまえ、利便性の良い地域公共交通を提供することが重要である。  
ライドシェアの導入も検討すべきと思う。

## 行政視察研修報告書

作成者氏名	衛藤 清隆
視察先・視察日	鹿児島県南さつま市議会 熊本県あさぎり町議会 令和7年5月20日、5月21日、5月22日
視察目的	鹿児島県南さつま市議会 地域公共交通について 熊本県あさぎり町議会 地域公共交通関係及びデマンド交通について
所 感	
<p>●鹿児島県南さつま市議会</p> <p>公共交通を担うバス事業者は1社、タクシー事業者は4社ある。バスの代替手段になりうるタクシーは運転手不足が問題となっている。</p> <p>今は鹿児島交通に委託しているつわちゃんバスが4路線と9地区に運行されている。つわちゃんタクシーがあるが今後はバスの運転手不足により予約型乗合タクシーへ移行する。</p> <p>又既存の移動手段に頼らない為、県内でも事例のない最新技術の自動運転の実証を実施するとのこと。</p> <p>自動運転社会実装推進事業による自動運転EVバスの運行によって地域課題の解決にチャレンジするとのこと。</p> <p>●熊本県あさぎり町議会</p> <p>最初にあさぎり町まちづくり運動支援助成事業について申請から事業実施までの流れについて説明を受ける。デマンド交通については、予約によって他の利用者との乗り合いタクシーで1人1回300円です。</p> <p>以前は定時運行であったため、利用客がいなくても車両が稼働する非効率な運行形態であったため、町内の路線バス乗降調査を行い導入への判断とした乗降場所は停留所から自宅付近になった。又停留所間の移動から37ヶ所の指定乗降場所が増えた。</p> <p>予約は往復の2件まで予約がとれる等、利便性向上につながっている。</p>	
調査研究・政策提案事項	
<p>公共交通は地域事情が異なり難しいが、日出町の場合はコミュニティバスと予約型乗合タクシーの併用で良いのではないかと、しかし運転本数の増便やコース変更等があり1年か2年での見直しも必要になると思う。</p> <p>免許返納者や高齢者等だれもが町外の病院等に不便なく移動できる手段も必要になるのでは。</p> <p>今回の研修には担当職員も同行されているので今回の研修を参考にしながら、最善の移動手段を模索できたらと思う。</p> <p>又日出町も南さつま市のように、このような補助事業があれば活用して自動運転EVバスの実証実験に挑戦してもても良いのではないかと感じた。</p>	

## 行政視察研修報告書

作成者氏名	河野 美華
視察先・視察日	鹿児島県南さつま市・令和7年5月20日（火） 熊本県あさぎり町 ・令和7年5月21日（水）
視 察 目 的	地域公共交通・まちづくりについて
研 修 内 容	
<p>1. 鹿児島県南さつま市</p> <p>人口は 30,652 人、面積は 283.59 k m<sup>2</sup>で基幹産業は、内陸部での農業と沿岸部での漁業である。南さつま市では交通政策推進事業としてデマンドタクシーとコミュニティバス、自動運転バス（実証実験で2週間のみ）と公共交通を充実させるために試行錯誤している様子が伺えた。しかしながら鹿児島県内でも事例のない最新技術だという自動運転は非常に多額の費用がかかっており、初期費用等は国庫補助が全額出るがいずれは補助額は減らされるということであり、お金がかかりすぎることや信号と連動させなければならないなど行政側の負担と利用者の満足度を見た時に事業導入を成功と呼べるまでは少し時間がかかりそうな印象をうけた。</p> <p>2. 熊本県あさぎり町</p> <p>人口は 13,887 人、面積は 159.49 k m<sup>2</sup>で平成 15 年に 5 か町村が合併してあさぎり町となっている。まちづくり事業に関しては日出町とほぼ同様の助成事業であり、実施要綱も読み質問もしたが特別に違いが無かったように思う。地域公共交通に関してはデマンド交通「ほのぼの号」が走っており、特に公共交通の通っていない区の利用者が非常に多く利用していて運行車両台数は定時 3 台、臨時 1 台で稼働しているとのこと。平日のみの運行のため、日出町の様に土日のどちらか運行を希望する声はないかと質問したところ、要望はあるがデマンド交通の利用者が増えており地元のタクシー会社の収益が下がってきているためこれ以上運航日を増やせないという回答であった。住民ニーズと地元業者への影響という相反する課題の解決は多くの自治体が頭を悩ませていることであり、抜本的な解決方法の必要性を改めて感じた。</p>	
研修結果・政策提案事項等	
<p>今回の視察で参考にしたいと感じたのはあさぎり町のおでかけパックである。「デマンド交通ほのぼの号+かちゃあボランティア」を利用したおでかけパックという制度があり、かちゃあボランティアとは日常生活で支援が必要な高齢の方、障害をお持ちの方を対象にお手伝いをするサービスで、暮らしの中で起こるちょっとした困りごとのお手伝いを地域住民がボランティアとして暮らしをサポートする地域の支えあい活動であるが、日出町にもエプロン隊という同様の活動がある。デマンド交通とエプロン隊という既存のサービスを組み合わせるだけで日出町でも可能な取り組みだと思う。今後は地域公共交通を単なる交通サービスだけではなく、福祉サービスとしても住民が利用できるよう委員会の所管にとらわれず横断的に働きかけていきたい。</p>	